

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 大牟田市立平原小学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 836-0813

福岡県大牟田市平原町333

E-mail hirabaru-ed@st.city.omuta.fukuoka.jp

Website http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/hirabaru-es/

幼児児童生徒数 男子 71 名 女子 78 名 合計 149 名

幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「豊かな心を持ち、共に学び、たくましく生きぬく子どもにお育成」を学校教育目標に掲げ、ESDを持続可能な社会の実現として捉え、よりよい消費者市民の育成を目指し、消費者教育の実践を通して、「批判的に考える力」「他者と協力する態度」「つながりを尊重する態度」の資質・能力の育成を目標とした。具体的には、各教科および領域を柱に、どの学年でも学習過程の中に、①学び合いⅠの活動(課題に対して自分の考えを構成し、友達と交流する活動)、②学び合いⅡの活動(学び合いⅠで交流したことをもとに、考えの再構成、意思決定する活動)を位置づけ、意欲的に考え、表現する子どもの育成を目指す消費者教育の学習を行った。また、目ざす子ども像を「A:批判的に考える力」(低学年:いろいろな情報を正しく理解できる子ども、中学年:いろいろな情報を比べながら、考えることができる子ども、高学年:様々な情報の中から、根拠をもとに判断し、意思決定ができる子ども)「B:他者と協力する態度」(低学年:友達の考えや思いを聞き、最後まで協力してやり遂げる子ども、中学年:友達の考えや思いを受け入れ、協力して活動する子ども、高学年:友達の考えや思いを取り入れ、協力してよりよい方向で物事を進める子ども)「C:つながりを尊重する態度」

(低学年：課題に意欲的に係わり，分かったこと，考えたこと等に気付く子ども，  
中学年：課題に意欲的に係わり，理由を入れて，自分の言葉でまとめることができ  
る子ども，高学年：課題に意欲的に係わり，根拠をもとに，自分の言葉や行動  
で表すことができる子ども)と設定して，授業実践を行った。

① 低学年の活動

1年：学級活動「自分の持ち物の片付け方」

2年：生活科「あそび大すき あつまれ」

② 中学年の活動

3年：社会科「わたしたちの暮らし ～店の仕事～」

4年：総合的な学習の時間「地域のお年寄りとふれあおう

～平原校区笑顔いっぱいプロジェクト～

③ 高学年の活動

5年：家庭科「じょうずに使おう お金と物 ～目指せ！買い物名人～」

6年：学級活動「思いやり・親切プロジェクトをよりよくしよう」

【① 写真】



【② 写真】



【③ 写真】



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

- 持続可能な開発のための教育(ESD)の理論と実践(2012 ミネルヴァ書房)
- 地域における消費者教育のヒント集(H25 文部科学省消費者教育推進委員会)
- 持続可能な社会をみざして(2014 平凡社)
- 大牟田市教育委員会からのユネスコスクールやESDに関するリーフレット等

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200~300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校におけるESDの目標を「持続可能な社会を構築するために、校内研究を連動させ、3つの資質・態度の育成をみざす。そのため、体験活動を通して、ひと・こと・ものを活用し、意欲的に考え、表現する子どもを育成する。」と設定している。

そのため、年間指導計画(①ESDカレンダー②消費者教育年間計画③消費者教育体系イメージマップ)を作成し、授業実践しながら、随時、付加・修正をしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項1-4に対応

年間指導計画(①ESDカレンダー②消費者教育年間計画③消費者教育体系イメージマップ)をもとにした、単元計画(イメージマップ)を作成し、付加・修正を入れていくことで、授業づくりに努めている。また、体験活動を重視し、市やボランティア団体の人材をGTとして招いて、活用させていただいている。ESDルームには、各学年の取り組んだ足跡、交流のある中国大同市第十八小学校や岡山県岡山市立御休小学校との交流コーナーを設けて、子ども達の興味・関心を高めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項1-5に対応

大牟田市教育委員会へのESD取組の報告や表現集会(月に1回)を設けて、学習した内容を地域や保護者の方々に発信する場を設定している。表現集会では、各学年が工夫をこらして発表することで、子ども達の意識の向上はもちろんのこと、地域・保護者の声を聞くことができ、次への意欲へとつながっている。報告書に関しては、全職員で共通理解(成果と課題)を共通理解し、次年度の具体的方策を検討し、共有化を図っている。

- ⑤ ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項2-2に対応

本校のESDの取組を、ユネスコスクール記念集会で、発表するように設定している。地域・見守り隊・保護者の方々に呼びかけ、2学年が発表するよう計画している。また、中国大同市第十八小学校との交流(プレゼント等)や岡山市立御休小学校との交流(学校・地域の歴史資料、ビデオレター等)、各学年の取組をまとめた模造紙等を展示している。子ども達は自信をつけ、地域・見守り隊・保護者の方々には、ESDの理解が図られている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項2-3に対応

情操教育の一環として、毎月1回、保護者ボランティアのミミックさん、大牟田朗読の会の皆様による読み聞かせをしている。その他、市民部市民生活課の方には、4年生の総合的な学習の時間にGTとして、入っていただきました。平原校区まちづくり協議会の皆様には、一人暮らし訪問や校区クリーン作戦の手伝い等をしていただいている。6年生総合的な学習の時間には、日本の伝統文化で、茶道体験を通して、お点前の作法や歴史を教えていただいている。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）  
※チェック事項2-4に対応

ユネスコスクール協力校である岡山県岡山市立御休小学校との交流を3年間行っている。対象は、6年生同市の交流で、ESDの取組や互いの地域の歴史、学校・クラス紹介、行事紹介等を含めて、画用紙にまとめた物やビデオレター等を送り合っている。中国大同市第十八小学校との交流も37年になり、春節や正月等のプレゼント交換や中国人留学生を招いて、中国の文化や歴史等について教えていただいている。

本年度は、教頭がインド出張に行き、施設や子ども達に伝えたいことを模造紙にまとめて、発信した。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項2-5に対応

児童においては、日頃の授業実践から「批判的に考える力」を身につけさせるために、学び合いⅠ・Ⅱを位置づけ、交流活動をしているため、友達の考えのよさを自分の考えに取り入れることができるようになりつつある。また、ユネスコスクール記念集会等でのESDの説明等を校長先生よりしてもらうことで、徐々に広がってきている。

教職員においては、市内外のESD研修会への参加が積極的になり、ESDに対する関心が高まり、意欲的になってきている。

保護者・地域の方々においては、ユネスコスクール記念集会等に参加していただき、校長先生の話や子ども達の発表、展示物等からESDへの理解・取組のよさを広げることができた。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

- 1年：○地域のお年寄りや幼稚園、保育園児との交流（福祉）  
○動物や自然との触れ合い活動（環境）
- 2年：○手作りおもちゃで1年生と楽しく遊ぶ交流活動（福祉）  
○地域の方々との野菜やさつまいも栽培活動（環境）
- 3年：○視覚障害者との交流を通して、何ができるかを考える交流活動（福祉）
- 4年：○高齢者福祉施設や一人暮らしの方々を訪問して、高齢者との交流（福祉）  
○ニセ電話詐欺について学び、地域の高齢者に注意を喚起する啓発活動（福祉）
- 5年：○安全・安心の地域にするために、安全マップづくり（福祉）  
○近くの川の水質検査をし、現状を知り、環境について考え、交流（環境）
- 6年：○近代化産業遺産の見学、世界遺産についての調べ学習を通して、先人が残した遺産の大切さを考え・発信する学習（世界遺産）  
○G Tの話聞き、自分の夢について考え・発信する学習（キャリア教育）  
○岡山県岡山市立御休小学校との交流（地域の文化財学習）
- 全学年：中国大同市第十八小学校との交流（国際理解）